

診断放射線のリスクを考える

開催日：平成 23 年 1 月 29 日（土）

場 所：名古屋第二赤十字病院（八事日赤） 研修ホール

時 間：14 時 00 分 ～ 17 時 00 分（開場：13 時 30 分より）

参加費：会員 1,000 円（当日 1500 円）テキスト代込み

学生無料（要学生証、テキスト無）

共 催：(社)愛知県放射線技師会

日本保健物理学会

(社)日本放射線技術学会 中部部会 放射線防護研究会

協 賛：(株)千代田テクノル

事前登録 URL

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/bf1f2416125068>

申込期間：平成 22 年 11 月 8 日～平成 23 年 1 月 ~~22 日~~27 日（延長しました）

【趣旨】

マルチスライス CT の普及によって、1 回の検査で数十 mGy の被ばくを受けることも稀ではなくなり、医療放射線に対するリスク評価は以前にも増して重要になっている。数十 mGy というのは、疫学調査で発がんの決定的な証拠があるわけではなく、かといって無視できるほどの微少な線量ではない。そのため、リスクをどう見積もるかという点に関して、専門家の間でも議論が絶えない。

今回のセミナーでは、医療被ばくの実態及び放射線影響に関する最新の知見に照らし合わせて、CT 検査をはじめとする医療被ばくのリスクをどう考えるべきかを整理する。

－ プログラム －

テーマ：診断放射線のリスクを考える（14時00分～17時00分）

14:00 ～ 14:05	開会のあいさつ（5分） 愛知県放射線技師会 会長 佐野幹夫(予定)
14:05 ～ 15:40	講演（95分：趣旨説明5分、各講演25分＋質疑5分） 座長：名古屋大学医学部教授 太田勝正 （1）診断放射線による医療被ばくの現状 名古屋第二赤十字病院 有賀英司 （2）診断放射線による発がんリスク評価に関する研究 放射線医学総合研究所規制科学総合研究グループ 吉永信治 （3）低線量放射線の発がんリスクに関する主要国際機関の見解 大分看護科学大学准教授 伴 信彦
15:40 ～ 15:55	休憩（15分）
15:55 ～ 16:55	総合討論（60分） 「診断放射線のリスクをどうとらえるか」 ・論点の整理と見解（伴 信彦） ・パネル討論（フロアからの質疑）
16:55 ～ 17:00	閉会のあいさつ（5分） 日本保健物理学会 理事 太田勝正